

おてら

春彼岸法要会

先祖への供養は

私への供養

三月十七日〜二十三日

三月二十日(金・祝)

午前十一時より

彼岸中日法要

護持会総会

正午 おとき

おときも椅子席になつています

ご本尊様にお参りしてから

お墓参りをしましょう

常例十六日講
毎月十六日午後一時より
お経練習・法話会

写経会

毎月第二・四金曜日
午後一時より

諸法無我

位職 蒲原 靈英

今、量子コンピューターが注目されています。従来のコンピューターの情報単位が「0」か「1」のどちらかの状態しか表すことができないのに対し、量子コンピューターの情報単位は、同時に「0」でも「1」でもあって、「0」と「1」の間のすべての値でもあるため、扱える情報量が大幅に増え、演算能力も大幅に高まるのです。量子コンピューターは、「素粒子のような超ミクロの物質は本質的に曖昧で不確かであり、宇宙に実体は無い。しかし、関係性によっては実体がある」という最先端の量子力学の原理を基にしていますが、これは、もうすでに二千五百年も前にお釈迦様が説かれていたことでした。それは、「この世のあらゆる全てのものごとには、固定した実体としての我(自性)が無く、その在り方は、絶えず他との因縁生起(縁起)によって成り立っている」とする「諸法無我」の教えです。そもそもこの私も、偶々たくさんの縁によって今ここに存在しているに過ぎません。私の命と思っていますが、私の思いとは無関係に心臓が動き続け、呼吸しているのが事実です。私の命というのなら、心臓の動きも呼吸も自由にできるはずです。私の命も私の家族も私のお金も、全て縁あって一時的に私のものになっているに過ぎないのですから、縁が無くなれば私から離れていきます。ところが、私達はそれらに執着してしまうために、私から離れることを恐れ、悩み、苦しむのです。つまり、「私から離れる」という事実ではなく、執着が苦しみを生むのであり、謂わば、勝手に自分で自分の首を絞めて苦しみがいていっているのです。であるならば、「執着しない生き方をすれば、心は常に平穏で、苦しみから解放されますよ。この世は諸法無我なんですから」と、お釈迦様は説かれているのです。

長い時間試行錯誤してやっと辿り着いた先が、古臭く非科学的なものだと思われている仏教の教えだったと、驚く科学者も多いようです。仏教で物質の最小単位である「極微」がほぼ素粒子の大きさであるとか、物理学で最先端の「超ひも理論」が仏教の唯識学に合致するとも言われています。お釈迦様の説かれた教えは、その時代を生きた人々にも二千五百年後を生きる私達にも、同じように生きるヒントとなるのです。

合掌

国宝・書院(鴻の間)でのお齋。
一汁五菜の精進料理が振る舞われる。



本山で御正忌報恩講



表現する」とし、「この世界において私自身を含めて固定して変化しないものは存在しない」と語り掛けました。しかし、「このような普遍的なありのままの真実を私達は理屈として理解はできるが、本当に受け入れて生きていくことは難しい」とも述べ、「真実に背いた生き方しかできない私に向けられた阿弥陀様のお働きは私を支えてくださるものとなり、私の生きる拠り所となる」と説かれました。そして、「本年も浄土真宗のみ教えを聞かせていただき、阿弥様のお働きの中で一日一日を過ごして参りましょう」と呼び掛けられました。

浄土真宗を開かれた親鸞聖人のご遺徳を偲び、阿弥陀如来の本願による救いのみ教えを改めて味わう御正忌報恩講が、一月九日から御祥月御命日の十六日まで、本山・御影堂で営まれ、全国の僧侶や門信徒など約四万人が参拝しました。阿弥陀堂修復に伴い、ご本尊(阿弥陀如来像)と御真影(親鸞聖人像)が安置された御影堂には、右余間に聖人のご生涯を描いた「御絵伝」が掛けられました。

大谷光淳門主は、十五日の速夜法要後にご親教(法話)を行われました。ご門主は、普遍的な真実を「仏教では諸行無常と縁起という言葉で

春の日帰りバスツアー

多宝温泉 だいろの湯

お誘い合わせのうえ
ふるってご参加ください!

4月10日(金)

会費 ¥ 6,500

タオル付

浄光寺

10:00発/16:00着

申込み 025-229-0629 お寺へ



